

2010年5月27日

## リチウムイオン二次電池用正極材の生産能力増強について

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社(本社:東京都港区、社長:小林 喜光、以下「当社」)は、このたび、水島事業所(所在地:岡山県倉敷市、事業所長:石川 甚秀)におけるリチウムイオン二次電池用正極材の生産能力の増強を決定しました。

当社は、2009年10月より水島事業所において、年産600トンの正極材製造設備を稼働させていますが、今後急速な市場拡大が見込まれるハイブリッド自動車・電気自動車・定置型蓄電システム等の需要に応えるため、生産能力を1,600トン増強し、年産2,200トンとします。増強工事の完了は、2010年10月を予定しています。

従来の正極材は一般的にコバルトのみを主原料としていましたが、昨今のコバルト価格の上昇等により、ニッケル・マンガン・コバルトを共に用いる「三元系」タイプのもものが主流になりつつあります。三元系正極材における各元素の含有比率は、通常、「ニッケル:マンガン:コバルト=1:1:1」(コバルト含有比率約33%)ですが、当社は独自の粒子構造制御や改質処理により、正極材の性能を維持しつつ、コバルトの含有比率を10%にまで大幅に低減させる技術を確立し、今般増強する正極材製造設備において量産を可能とします。

三菱化学はリチウムイオン二次電池の主要4部材(正極材・負極材・電解液・セパレータ)すべてを取り扱う世界唯一の企業として、お客様のニーズに合った最適な組合せを提案してゆくとともに、安定した品質と供給体制を整え、電池部材ビジネスのさらなる拡大に努めてまいります。

以上

本件に関するお問合せ先  
三菱化学(株)広報室  
電話:03-6414-3730

### 【ご参考:当社のリチウムイオン二次電池用主要4部材の生産能力と増強計画】

正極材(水島事業所)	現状600トン/年 + 増強1,600 (2010年10月～)
負極材(坂出事業所)	現状3,000トン/年 + 増強2,000 (2010年12月～)
電解液(四日市事業所)	8,500トン/年
セパレータ(三菱樹脂(株)長浜工場)	1,200万m <sup>2</sup> /年